

安保理ハイレベル公開討論 宮路副大臣ステートメント(仮訳)

議長、

ダール・パキスタン副首相兼外務大臣閣下によるこの重要な討論の開催に感謝申し上げます。また、グテーレス事務総長の洞察に満ちたブリーフィングにも感謝申し上げます。

今日の複雑な地球規模課題に直面する中で、国連を中心とする多国間主義は重大な岐路に立っています。

本年は国連創設80周年を迎えており、国連が、特に国際の平和及び安全の維持といった目的を果たすとともに、SDGsの達成を含む我々の時代のニーズに対処できるよう、国連を改革することは急務です。

日本は、「人間の安全保障」のアプローチが、国連の平和・開発・人道分野の資源をリンクさせ、これらの崇高なミッションを実現する上でこれまで以上に重要であると信じており、今後も一層推進していきます。

このような中で、日本はUN80イニシアティブに関する事務総長のリーダーシップを歓迎します。

議長、

我々が直面する複雑な課題に対処するためには、国際社会が団結し、あらゆる手段を動員しなければなりません。これに関し、日本は法の支配が多国間主義の礎であると固く信じています。

力による一方的な現状変更の試みは、国連憲章の下での多国間主義の前提を損なうものであり、決して容認してはなりません。日本は、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を維持・強化するために、国際社会と連携し続けます。

議長、

日本は、平和構築委員会(PBC)のメンバーとして、国連の平和構築に積極的に関与してきました。PBCの強みは、紛争の予防から解決、そして平和の定着に至るまで、あらゆる段階に関与できる能力にあります。

その招集力によって、PBCは人道・開発・平和(HDP)ネクサスを促進する可能性も有しています。したがって、安保理とPBCの連携をさらに強化する必要があります。

日本は、国連の平和構築システムを一層効果的かつ効率的にすべく、本年の平和構築アーキテクチャーレビューに建設的に関与し続けています。

議長、

国連が今日における喫緊の平和・安全の課題に対処していくためには、待ったなしの課題として安保理は改革されなければなりません。

特に、常任・非常任議席双方拡大を通じ、安保理の代表性、正統性、実効性を向上させることは不可欠です。

議長、

日本は、責任のある国連加盟国として、多国間主義へのコミットメントを一貫して示してきました。国連が国際の平和と安全を維持し、助けを求める人々に手を差し伸べ、地球規模課題に取り組むための能力を向上するよう、我々は引き続きリーダーシップを発揮していきます。

ありがとうございました。 (了)